

CBD市民ネット主催ワークショップ

生物多様性国内対話 in 高知・愛媛

みんなであつながる 四国生きものネットワーク

プログラム

13:30

話題提供

- 生物多様性を保全するために何ができるか？
草刈秀紀（WWF ジャパン）
- ツキノワグマ、ニホンジカの保護管理と生態系ネットワーク構想
金澤文吾（四国自然史科学研究センター）
- 四国の農業形態と田んぼに生息する生きものたちの保全
谷川徹（生物多様性農業支援センター四国事務所）
- 瀬戸内海島嶼部における景観の変化と生きものの変化
山本貴仁（石鎚ふれあいの里）
- 生物多様性と里海 高知県柏島の事例から
神田優（黒潮実感センター）

15:50

総合討論Ⅰ：グループワーキング

総合討論Ⅱ：まとめ

19:00

懇親会 参加費 5,000 円 詳しくはお問合わせください。

COP10パートナーシップ事業
私たちはCOP10開催を応援しています。

2010年2月21日（日）13:30-17:30

会場 高知市文化プラザかるぽーと11階大講義室

参加費 無料

（高知県高知市九反田2-1）

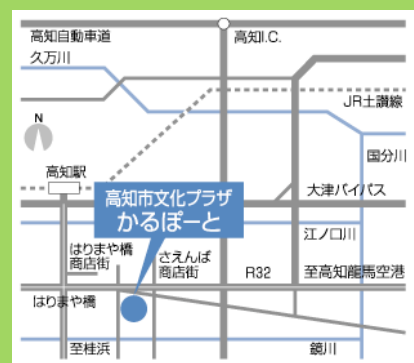
主催 生物多様性条約市民ネットワーク（CBD市民ネット）

協力 NPO 法人四国自然史科学研究センター・NPO 法人環境の杜こうち
NPO 法人生物多様性農業支援センター・四国EPO

後援 環境省中国四国地方環境事務所・林野庁四国森林管理局・高知県・愛媛県
高知県教育委員会・高知新聞社・愛媛新聞社・NHK 高知放送局
NHK 松山放送局・RKC 高知放送・KUTV テレビ高知・KSS さんさんテレビ
テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・南海放送（全て申請中、順不同）

連携協力 生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会（申請中）

お問合せ 生物多様性国内対話 in 高知・愛媛ワークショップ作業部会事務局
〒785-0023 高知県須崎市下分乙 470-1 四国自然史科学研究センター内
担当：金澤文吾 FAX：0889-40-0840 E-mail：kanazawa@lutra.jp





開催趣旨

私たちが暮らす四国は、海から山まで多種多様な生きものがすみ、日本の中でも豊かな自然環境に恵まれた地域と言えます。ひとつひとつの生きもののつながりが生態系を作り出し、私たち人間もその構成員として多くの恩恵を受けています。しかしながら、近年、地球規模の気候変動による生物相の変化や繁殖しすぎた、あるいは反対に減少しすぎたりして絶滅が危惧される動植物の存在など、私たちの周囲でも生物多様性に関わる多くの問題が生じています。私たちが安心して暮らしていくためにも四国の豊かな自然を保全していくことはとても重要なことです。

2010年は国連で定めた国際生物多様性年です。また、10月には国際的な枠組みを策定する生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が愛知・名古屋で開催されます。これを機に、四国の豊かな自然、四国の生物多様性を保全していくために、私たちにいったい何ができるのか、何から始められるのかを皆で考え、具体的な行動に移すことが求められています。このワークショップでは、一般市民や生物多様性の保全活動に取り組まれている方々に参加していただき、生物多様性について理解を深め、具体的な行動、施策の実施に向けて検討していきます。



生物多様性のお話

生物多様性は、3つのレベルの多様性で示されています。1つは、様々な環境に様々な生きもの（種）が適応して存在するという「種の多様性」、1つは、同じ種でも大きさや形、色などが地域によって違うなどの「遺伝子の多様性」、1つは、サンゴを育む沿岸、クマやシカなどがすみ森林、シオマネキが生きる干潟など、地域によっていろいろなタイプの自然があることをいう「生態系の多様性」です。

生物多様性を保全する理由

1. 水や空気などがあり、多様な生きものが相互に深くかかわり合い、生態系の中でつながっています。この豊かな生態系は「すべての生命が存在する基盤」となっています。
2. 多様な生きものの存在は、私たち人間にとって「有用な価値」があります。魚や貝などの海産物は海の生態系の恵みです。また、植物からは薬を開発したり、農作物を守ったり改良する価値もあります。
3. 豊かな自然は、日本人の自然観を育み、日常の生活や文化に浸透しています。地域に特色ある食べ物や工芸、お祭りなど風土をつくり、「文化を育む源」となっています。
4. 健全な森林では水を蓄え、土砂の流出や崩落を防ぐ機能があります。また、気候の調整や有毒物質を無毒化するなど、私たちの生活に「快適で安全な暮らし」を提供する自然の仕組みがあります。



今なすべきこと

- 生物多様性を社会に浸透させること。一般市民への普及啓発、県や市町村による生物多様性戦略作りの促進、企業のECO活動、市民参加型調査、環境教育、環境に配慮した生活様式の転換などを推進すること。
- 地域の人と自然の関係を再構築すること。森林を適切に管理し、災害を防ぐ、シカやイノシシの被害を軽減する対策、また農山漁村の活性化、希少動植物の保護、外来種対策を推進すること。
- 森・里・川・海のつながりを確保すること。流域を中心とした生態系のつながりの保全、生態系ネットワーク、水系のネットワークの構築、沿岸海洋域の保全・再生を推進すること。
- 地球規模の視野を持って行動すること。自然との共生のモデルを国内、世界へ発信すること。地球温暖化防止のための取り組みや地域のつながりが不可欠な渡り鳥、サンゴ礁の保全を推進すること。